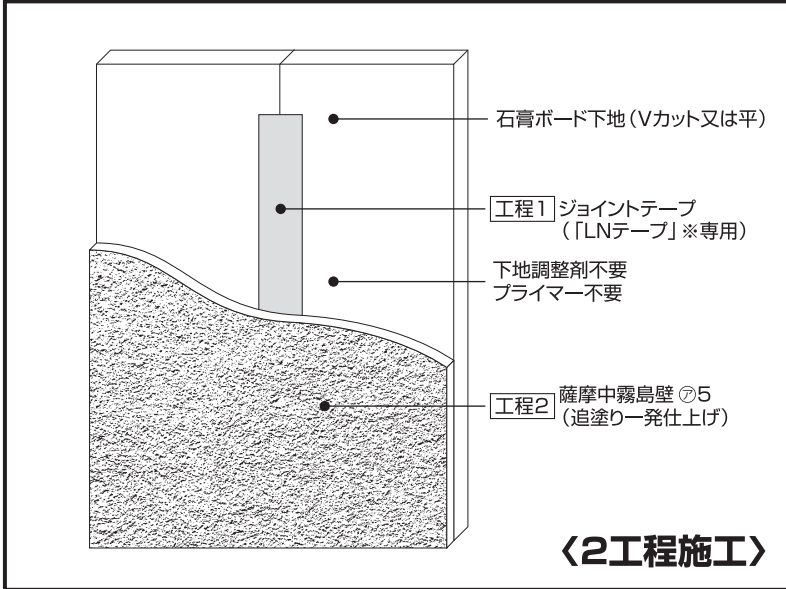


# 内壁 標準施工工程比較表

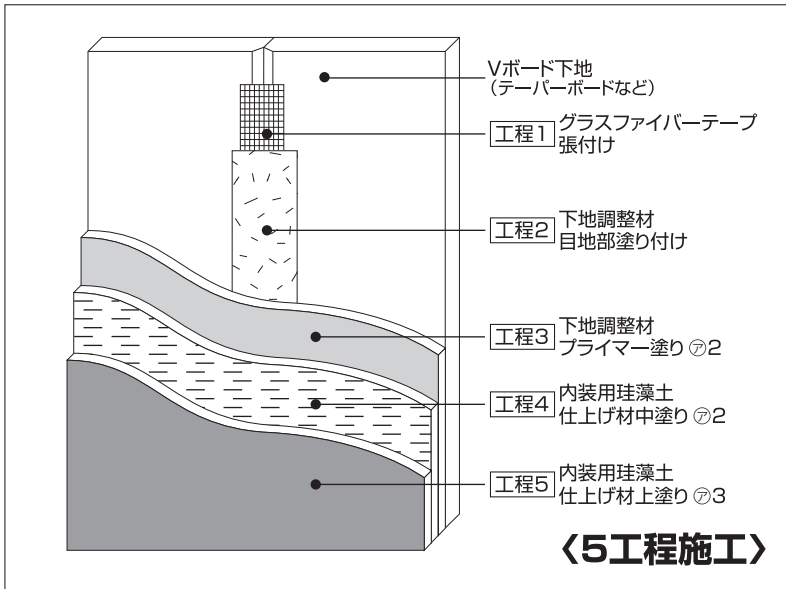
## 〈内装用〉「薩摩中霧島壁 (バイオセラ)」

工程を最小限に抑えた工法として開発した仕上げ法。大きな省力化を実現した要素として、下地石膏ボードのジョイント処理が澱粉系糊(「LNのり」※専用)で特製クラフトテープ(「LNテープ」※専用)を貼るだけという点と、下地プライマー塗布が不要となっていることがあげられる。追塗り一発仕上げの2工程で完成。材料はすべて自然素材100%を使用している。



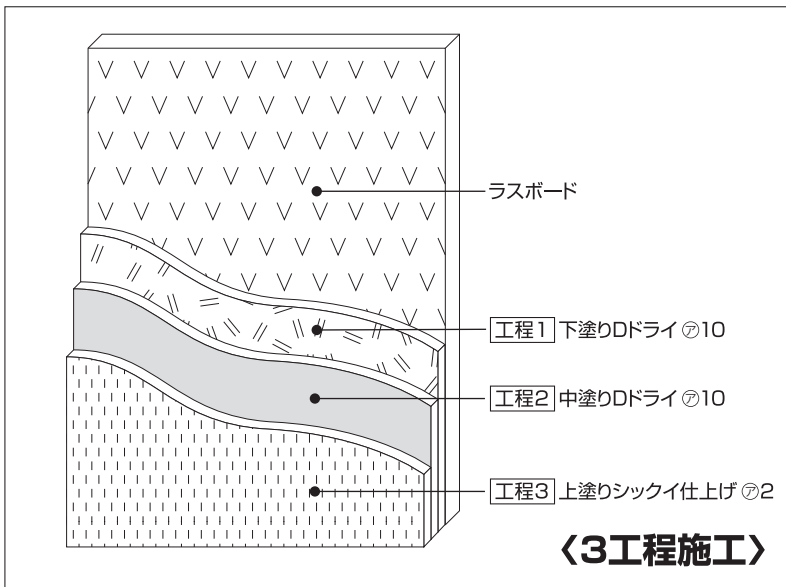
## 〈内装用〉珪藻土仕上げ

各メーカーによって多少工程に差はあるが、下地ボードのジョイント処理に樹脂パテとファイバーネットを使用することと、塗布面へのプライマーが不可欠となっているため、手間と時間を要する。仕上げも2回塗りが一般的で、全体として5工程かかる。また、自然素材を訴求する仕上げ材でありながら、パテやプライマーに化学物質を使用する点が問題でもある。



## 〈内装用〉シックイ仕上げ

昔ながらの伝統仕上げ。近年既調合品が出回り、以前と比べて練り混ぜでは大きく省力化が進んできたが、仕上りまでの全工程の省力化において大きな特性をもっているとはいいがたい。仕上げにおいて高度の技能を必要とし、近年の熟練工不足の時代には、大面積を施工する場合など高品質を確保するのが難しい。



## 「薩摩中霧島壁」「ピオセラ」VS 珪藻土壁 比較表

項目	評価	中霧島壁・ピオセラ	珪藻土壁	評価
自然素材	◎	100%自然素材。化学物質は一切使用していない	100%でない商品が多い(硬化剤・下塗材に化学物質を使用している場合がある)	○
省エネ度	◎	天然シラスを二次加工等せずにそのまま活用。製造過程においても省エネルギー	1,000℃前後の焼成が必要	△
含有率	◎	主原料天然シラス(マグマセラミック)が60%以上	珪藻土の含有率は10~50%	△
着色	◎	無機顔料を使用(化学物質ゼロ)	有機顔料を使用している場合がある	○
下地処理	◎	下塗り不要(石膏ボード下地の場合)	下塗りシーラーが必要(化学物質系)	△
ジョイント処理	◎	専用の紙テープ貼り付けのみ(化学物質を一切使わない)。手間は1/10	ネット系テープ貼り、パテしごきが必要(化学物質系)	△
養生	◎	ほぼ中性のため不要	強アルカリのため必要	×
施工体制	◎	全国に推奨左官店あり 電話等による指導体制を完備	特に設けていない場合がほとんど	△
ひび割れ	◎	ひび割れに非常に強い(収縮係数が小さいため)	硬化時に発生しやすい	△
消臭	◎	素材が多孔質なため。しかも一度吸着したホルムアルデヒドを再放散しない	素材が多孔質なため	○
流通	◎	生産直売方式でコストダウン	問屋・建材店ルート販売	○

※多少の偏った評価があるかもしれませんが、しかしこれ程の明確な格差は、「薩摩中霧島壁」「ピオセラ」がこれまでの内装材に大きな革新性を表していることを証明しています。